

第3期の振り返り

- 清掃及び園芸ボランティアが多く、地域の美化活動が盛んである。
- 地域の高齢者が散歩中に声を掛けてくれる。
- 東亜ガスとの協定を結び、災害時にサポート(ガスボンベの配布等)が得られるようになった。
- 市営ひかりが丘住宅はリフォーム工事を経てさらに住みやすくなると思われる。
- 地域活動は活発に行われているが、まだ必要な活動は多くある。高齢化が一層進み、生活弱者の孤立や引きこもりが増え、見守り活動がより一層重要となっている。

地域福祉保健施設の分布



- #### 子育て施設

 - ◆ 認可保育所
 - ① 横浜市立ひかりが丘保育園
 - ② 土と愛子の子の家保育所第2
 - ◆ 幼稚園
 - ③ 四季の森幼稚園
 - ◆ 児童養護施設
 - ④ 旭児童ホーム・児童家庭支援センターおおいけ

高齢者施設

 - ◆ 認知症対応型 共同生活介護 (グループホーム)
 - ① みんなの家・横浜上白根
 - ◆ 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)
 - ② サンライズヒル横浜
 - ◆ 椿寿
 - ④ ヴィラ横浜
 - ⑤ ヴィラ桜ヶ丘
 - ◆ 介護老人保健施設
 - ③ 四季の森
 - ④ ケアホーム横浜

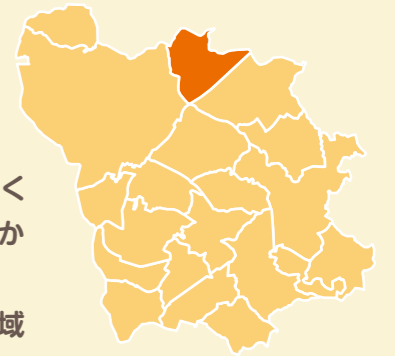
その他の施設 (通所、入所、障害児)

 - ① [通] しらねの里・げんき
 - ② [通] カブカブ
 - ③ [通] 偕恵シグナル はれるや
 - ④ [入] 偕恵

説明
[入]：入所施設
[通]：通所施設
[児]：障害児施設

第4期 きらっとあさひプラン

上白根 地区



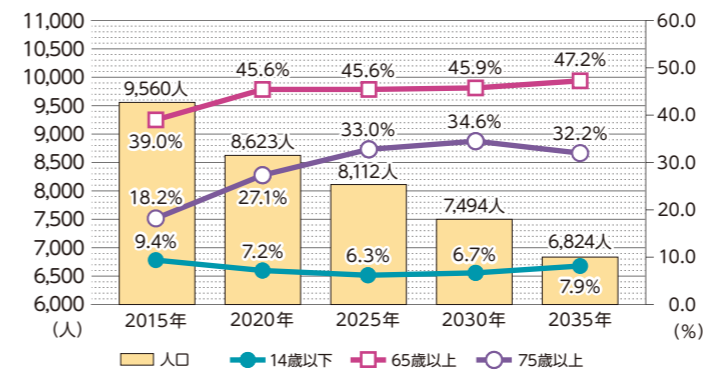
上白根地区は、緑区との区境に位置し、中堀川の源流域の北東側が大きく造成されてきた緩やかな南東斜面で、市営ひかりが丘住宅及びUR西ひかりが丘団地の大規模団地と戸建てのエリアから成り立っています。

また日本最大級の動物園、横浜動物園ズーラシアも、1999年にこの地域に開園しました。

DATA

将来人口推計

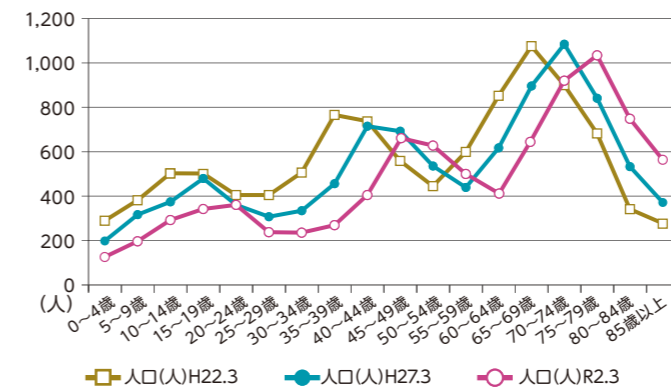
出典：横浜市統計ポータルサイト「町丁目別世帯と男女別人口」(各年3月末現在)



将来人口推計は、今後も減少が推測され、65歳以上の比率は2020年に45%を超えています。14歳以下の比率は、2020年以降、総じて横ばいに推移すると推測されます。

年齢5歳別人口の動向

出典：横浜市統計ポータルサイト(各年3月末現在)



平成22年には65～69歳であった5歳別人口数のピークは、令和2年には75～79歳となっています。また、平成22年・27年に比べて年少人口は減少、75歳以上の5歳別の人口は増加しています。65歳以上の高齢者の割合は、平成27年には39.0%でしたが、令和2年には45.6%となり、区平均の29.2%を大きく上回り、高齢化が進んでいることが分かります。

人口、世帯数、年齢別人口等の動向

	H22	H27	R2	H22～R2 増減数	H27 構成比(%)	R2 構成比(%)	R2 区平均 構成比(%)
総人口(人)	10,236	9,560	8,623	▲1,613	100.0	100.0	100.0
0～14歳(人)	1,172	895	619	▲553	9.4	7.2	11.6
(内0～6歳)(人)	412	314	198	▲214	3.3	2.3	4.9
15～64歳(人)	5,782	4,938	4,074	▲1,708	51.7	47.2	59.2
65歳以上(人)	3,282	3,727	3,930	648	39.0	45.6	29.2
(内65～74歳)(人)	1,986	1,983	1,590	▲396	20.7	18.4	13.2
(内75歳以上)(人)	1,296	1,744	2,340	1,044	18.2	27.1	16.0
総世帯数(世帯)	4,977	4,946	4,809	▲168	-	-	-
平均世帯規模(人/世帯)	2.06	1.93	1.79	▲0.26	-	-	2.13

出典：横浜市統計ポータルサイト「町丁目別世帯」、「町丁目別年齢別男女別人口」(各年3月末現在)

※人口・世帯数の数値は町丁目別単位での集計のため、町丁目が地区をまたぐ等により、実際の数値と一致しない場合があります。

私たちが描く地区の未来図

『ともに声をかけ合い、ともに助け合い、
ともに考え、ともに育ち、ともに生きる街』

目標と主な取組

目標 A) 地域全体で協力して『あいさつ』活動

- ④ 上白根地区は挨拶運動が盛んな街。のぼりの活用や、学校や福祉施設、各グループに積極的に挨拶運動を呼びかけ、その輪を大きくし、誰もが声を掛け合う街づくりを行っていきます。



目標 B) 地域全体で協力して『見守り』活動

- ④ とともに支え合い安心して自分らしく暮らせる街づくりとして、高齢者や障害者、子ども、外国人等の孤立解消するために、福祉施設や教育機関等と連携し、地域の結びつきを向上させ、担い手不足を解消し、地域の困り事、例えば買物支援や移動販売の充実を図っていきます。



目標 C) 地域全体で協力して『防災』活動

- ④ 地域の学校等と協働して、感染症対策の見直しを行ったうえで、災害時でも充分機能する防災組織を構築し、組織力の向上を図っていきます。



▲東亜ガス(株)様と大規模災害時における相互連携に係る覚書締結式



▲給水訓練の様子

目標 D) 地域で暮らす人々が支えあい助け合う地域の実現

- ④ 安心して自分らしく暮らせる街として、ともに声をかけ合い、ともに助け合い、ともに考え、ともに育ち、ともに生きる街を目標に、コア会議(委員会)を立ち上げ、活用できる制度や、活用できる場所(西ひかりが丘商店街空店舗)、協力して頂けるグループや個人を発掘し、具体的な提案を行い実施していくとともに、それぞれの会議体が連携出来るような仕組みを構築していきます。



推進体制

上白根地区支えあい連絡会… 地区社会福祉協議会、連合自治会、ひかりが丘団地自治会、西ひかりが丘団地自治会、上白根町内会、ハーベストタウン町内会、フォレストヒルズ自治会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、老人クラブ連絡協議会、青少年指導員、上白根中学校PTA、旭陵高校、上白根中学校、四季の森小学校、四季の森幼稚園、ひかりが丘保育園、土と愛子どもの家保育所第2、旭児童ホーム、白根学園、偕恵園、カプカプ、大池公園こどもログハウス、ひかりが丘地域ケアプラザ